

令和3年度改善計画（案）

【函館市生活交通路線のうち平均乗車密度が5人未満の路線】

- 1 下海岸線②（9 1 E 系統） 1 ページ
- 2 下海岸線③（9 1 F 系統） 5 ページ
- 3 鹿部海岸線②（2 2 4 系統） 9 ページ
- 4 旭岡団地線②（7 6 B 系統） 13 ページ

函館バス株式会社

I 改善計画案 (事業者が記載)

1 路線の概要

路線名：下海岸線② (91E系統) (運行実績期間：R1.10～R2.9)

運行系統					運行ダイヤ				
起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	実車走行 キロ (km)
日ノ浜 団地	海向山	榎法華 支所前	7.5	400	10:46 10:22	18:04 18:21	12	3.4	18,952.5

輸送実績		経常費用 (円)	経常収益 (円)	費用－収益 (円)	補助見込額	
平均乗車 密度	輸送量	(A)	(B)	(A)－(B)	(千円)	
0.5	1.7	5,243,777	792,355	4,451,422	限度額	2,359

資料：運行系統図

2 路線の収支および補助額の推移 (過去3カ年)

区 分	前々年度	前年度	当年度
経常費用 (A) (円)	5,469,471	5,448,275	5,243,777
経常収益 (B) (円)	2,230,705	1,471,030	792,355
(A)－(B) (円)	3,238,766	3,977,245	4,451,422
補助金額 (円)	2,461,000	2,451,000	2,359,000
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

3 路線の維持、必要性の検討

(1) 代替性

① 重複および近接する路線 有 ・ (無) → (2) 機能性・需要量へ

② 重複および近接する路線の概要

路線名	運行系統				運行ダイヤ				輸送実績		
	起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	平均乗車 密度	輸送量

(2) 機能性・需要量

① 路線沿線の施設 (学校、病院、公共施設、商業施設等) (有) ・ 無 → (3) 地域振興へ

② 路線沿線の主な施設

恵山支所・榎法華支所

③ 平均乗車密度の推移 (過去3カ年) (人)

区 分	前々年度	前年度	当年度
平均乗車密度	1.8	1.2	0.5
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

資料：停留所別乗降データ (調査日：令和2年9月15日)

(3) 地域振興

戸井支所、恵山支所、榎法華支所、南茅部支所の所管区域の経由 (有) ・ 無

4 収支改善のための具体的な方策

(戸井支所, 恵山支所, 楳法華支所, 南茅部支所の所管区域を経由する路線については必要に応じて記載。)

- 当該路線は従前より平均乗車密度が5.0を下回っていたが, 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行による利用減少の影響を受け, 収支が大きく落ち込んだ。
- 当該路線については, 一部, 函館駅方面から恵山までの広域的な路線と接続し, 楳法華に行く系統であるため, 見直す際には, 総体的に見直す必要がある。
- 函館市策定の地域公共交通再編実施計画に基づき, 地域関係者と協議しながら, 市が東部地区で運行する病院バス・温泉バス等の取扱いとあわせて, 地区特性に応じた運行形態への見直しを進めることとしている。

<利用促進策として>

- ①平成30年4月より, 既存の定期券がI C A S nimoca (I Cカード) を利用したものに切り替わるにあたり, 新聞折込のタブロイド誌発行のほか, 学校等関係機関への周知活動を図り利用促進を図った。引き続きI C A S nimocaの地域に対する周知活動は継続していく。
- ②函館市の交通料金助成制度が平成30年4月より, I C A S nimocaを利用した制度へ移行するにあたり, 函館市と協力し, 地域への説明会及びI C A S nimocaの販売を実施した。
- ③北海道新幹線新駅沿線協議会(函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・J R北海道・函館市企業局・津軽海峡フェリー・函館バス) 発案の『はこだて旅するパスポート』(J R・函館市電・道南いさりび鉄道・函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・木古内町管内の路線バスが2日間乗り放題の共通フリー乗車券 ※津軽海峡フェリーはパスポートを提示すると20%割引) を販売し, 観光客のバス利用の促進を図っている。平成30年4月からは利用期間がこれまでの2日間用に加え, 新たに1日間用の乗車券も販売開始しさらなる利用者の利便性の向上を図った。
なお, 『はこだて旅するパスポート』のパンフレットには, 東部地区の路線バスで行くモデルコースも掲載されている。
- ④外国人の利用促進策として, アジア向け観光ウェブサイト「悠々北海道」に路線バス情報を発信しているほか, 上記に記載のとおり全国共通I Cカードシステムを導入した。さらに平成30年3月には, 新たに英語対応ができるバスロケーションシステム(バスの接近情報がわかるシステム)に更新しさらなる利便性向上を図った。なお, 新たなバスロケーションシステムは, すべてのスマートフォンで見やすく表示できるよう対応し, さらに, 函館バス同士での1回乗継ぎが発生する場合の接近情報も見ることが可能となっている。
- ⑤平成31年2月より, 道内19社共同で外国人観光客に向けた『北海道バジェットバスパス』の販売を開始した。道内広域で高速バスを含めた指定路線バスが乗り放題となり3日間用と5日間用がある。当路線でも使用することができ, 外国人観光客の利便性が向上している。
- ⑥公共交通網の構築の実現に向けたバス路線網再編の一環として, 系統番号の見直しを平成31年4月に実施した。系統番号を方面別に整理し, すべての系統に番号が振ることにより, バスの番号を見るだけで方面がわかるようになり, また, 外国人観光客へも番号でバスを案内できるようになる等利便性の向上が図られた。

改善しない場合の理由

()

II 函館市生活交通協議会における協議 (市が記載)

- ① 収支改善のための具体的な方策への意見等

()

- ② 路線維持・補助の必要性について

必要性 有 ・ 無

↓ ()

III 改善計画 (事業者が記載)

- ① 函館市生活交通協議会の意見に対する事業者の検討結果

()

- ② 実施日 ()

運行系統図 — 下海岸線② (9 1 E 系統)
(日ノ浜団地～海向山～榎法華支所前)



停留所別乗降データ(単位:人)

調査日: 令和2年9月15日(火)

運行系統名	起点	経由	終点	キロ程	運行回数
下海岸線② (91E系統)	日ノ浜団地	海向山	榎法華支所前	7.5	2.0

停留所 連番号	停留所名	10:46発			13:00発			15:01発			18:04発			合計			
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	
1	日ノ浜団地							1							1		
2	絵紙山									1							1
3	海向山									1							1
4	榎法華小学校前									1							1
5	榎法華支所前								1	1						1	1
合計								1	1						1	1	

運行系統名	起点	経由	終点	キロ程	運行回数
下海岸線② (91E系統)	榎法華支所前	海向山	日ノ浜団地	7.5	1.5

停留所 連番号	停留所名	10:22発			14:44発			18:21発			合計						
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過				
1	榎法華支所前																
2	榎法華小学校前																
3	海向山																
4	絵紙山																
5	日ノ浜団地																
合計																	

I 改善計画案 (事業者が記載)

1 路線の概要

路線名：下海岸線③ (91F系統) (運行実績期間：R1.10～R2.9)

運行系統					運行ダイヤ				
起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	実車走行 キロ (km)
日ノ浜 団地		恵山御崎	6.3	350	8:00 18:25	—	17	0.9	4,573.8

輸送実績		経常費用 (円)	経常収益 (円)	費用－収益 (円)	補助見込額	
平均乗車 密度	輸送量	(A)	(B)	(A)－(B)	(千円)	
0.1	0.0	1,265,478	84,042	1,181,436	限度額	569

資料：運行系統図

2 路線の収支および補助額の推移 (過去3カ年)

区 分	前々年度	前年度	当年度
経常費用 (A) (円)	1,301,734	1,318,452	1,265,478
経常収益 (B) (円)	224,348	129,848	84,042
(A)－(B) (円)	1,077,386	1,188,604	1,181,436
補助金額 (円)	585,000	593,000	569,000
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

3 路線の維持、必要性の検討

(1) 代替性

① 重複および近接する路線 有 ・ (無) → (2) 機能性・需要量へ

② 重複および近接する路線の概要

路線名	運行系統				運行ダイヤ				輸送実績		
	起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	平均乗車 密度	輸送量

(2) 機能性・需要量

① 路線沿線の施設 (学校、病院、公共施設、商業施設等) (有) ・ 無 → (3) 地域振興へ

② 路線沿線の主な施設

恵山支所

③ 平均乗車密度の推移 (過去3カ年)

区 分	前々年度	前年度	当年度
平均乗車密度	0.8	0.4	0.1
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

資料：停留所別乗降データ (調査日：令和2年9月15日)

(3) 地域振興

戸井支所、恵山支所、榎法華支所、南茅部支所の所管区域の経由 (有) ・ 無

4 収支改善のための具体的な方策

(戸井支所, 恵山支所, 椴法華支所, 南茅部支所の所管区域を経由する路線については必要に応じて記載。)

- 当該路線は従前より平均乗車密度が5.0を下回っていたが, 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行による利用減少の影響を受け, 収支が大きく落ち込んだ。
- 函館市策定の地域公共交通再編実施計画に基づき, 地域関係者と協議しながら, 市が東部地区で運行する病院バス・温泉バス等の取扱いとあわせて, 地区特性に応じた運行形態への見直しを進めることとしている。

<利用促進策として>

- ①平成30年4月より, 既存の定期券がI C A S nimoca (I Cカード) を利用したものに切り替わるにあたり, 新聞折込のタブロイド誌発行のほか, 学校等関係機関への周知活動を図り利用促進を図った。引き続きI C A S nimocaの地域に対する周知活動は継続していく。
- ②函館市の交通料金助成制度が平成30年4月より, I C A S nimocaを利用した制度へ移行するにあたり, 函館市と協力し, 地域への説明会及びI C A S nimocaの販売を実施した。
- ③北海道新幹線新駅沿線協議会(函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・J R北海道・函館市企業局・津軽海峡フェリー・函館バス) 発案の『はこだて旅するパスポート』(J R・函館市電・道南いさりび鉄道・函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・木古内町管内の路線バスが2日間乗り放題の共通フリー乗車券 ※津軽海峡フェリーはパスポートを提示すると20%割引) を販売し, 観光客のバス利用の促進を図っている。平成30年4月からは利用期間がこれまでの2日間用に加え, 新たに1日間用の乗車券も販売開始しさらなる利用者の利便性の向上を図った。
なお, 『はこだて旅するパスポート』のパンフレットには, 東部地区の路線バスで行くモデルコースも掲載されている。
- ④外国人の利用促進策として, アジア向け観光ウェブサイト「悠々北海道」に路線バス情報を発信しているほか, 上記に記載のとおり全国共通I Cカードシステムを導入した。さらに平成30年3月には, 新たに英語対応ができるバスロケーションシステム(バスの接近情報がわかるシステム)に更新しさらなる利便性向上を図った。なお, 新たなバスロケーションシステムは, すべてのスマートフォンで見やすく表示できるよう対応し, さらに, 函館バス同士での1回乗継ぎが発生する場合の接近情報も見ることが可能となっている。
- ⑤平成31年2月より, 道内19社共同で外国人観光客に向けた『北海道バジェットバスパス』の販売を開始した。道内広域で高速バスを含めた指定路線バスが乗り放題となり3日間用と5日間用がある。当路線でも使用することができ, 外国人観光客の利便性が向上している。
- ⑥公共交通網の構築の実現に向けたバス路線網再編の一環として, 系統番号の見直しを平成31年4月に実施した。系統番号を方面別に整理し, すべての系統に番号が振ることにより, バスの番号を見るだけで方面がわかるようになり, また, 外国人観光客へも番号でバスを案内できるようになる等利便性の向上が図られた。

改善しない場合の理由

()

II 函館市生活交通協議会における協議 (市が記載)

- ① 収支改善のための具体的な方策への意見等

()

- ② 路線維持・補助の必要性について

必要性 有 ・ 無

↓ ()

III 改善計画 (事業者が記載)

- ① 函館市生活交通協議会の意見に対する事業者の検討結果

()

- ② 実施日 ()

停留所別乗降データ（単位：人）

調査日：令和2年9月15日(火)

運行系統名	起点	経由	終点	キロ程	運行回数
下海岸線③ (91F系統)	日ノ浜団地	古武井	恵山御崎	6.3	0.5
停留所 連番号	停留所名	8:00発			
		乗車	降車	通過	
1	日ノ浜団地				
2	恵山支所前				
3	古武井漁組前				
4	古武井				
5	東古武井				
6	山背泊漁港前				
7	恵山西				
8	恵山中学校前				
9	恵山登山口				
10	恵山				
11	七つ岩				
12	上御崎				
13	恵山御崎				
合 計		0	0		

運行系統名	起点	経由	終点	キロ程	運行回数
下海岸線③ (91F系統)	恵山御崎	古武井	日ノ浜団地	6.3	0.5
停留所 連番号	停留所名	18:25発			
		乗車	降車	通過	
1	恵山御崎				
2	上御崎				
3	七つ岩				
4	恵山				
5	恵山登山口				
6	恵山中学校前				
7	恵山西				
8	山背泊漁港前				
9	東古武井				
10	古武井				
11	古武井漁組前				
12	恵山支所前				
13	日ノ浜団地				
合 計		0	0		

I 改善計画案 (事業者が記載)

1 路線の概要

路線名：鹿部海岸線② (224系統) (運行実績期間：R1.10～R2.9)

運行系統					運行ダイヤ				
起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	実車走行 キロ (km)
南茅部 支所前	川汲	古部	15.7	640	17:53 17:22	—	28	0.9	11,241.2

輸送実績		経常費用 (円)	経常収益 (円)	費用－収益 (円)	補助見込額
平均乗車 密度	輸送量	(A)	(B)	(A)－(B)	(千円)
0.5	0.4	3,110,215	449,111	2,661,104	限度額 1,399

資料：運行系統図

2 路線の収支および補助額の推移 (過去3カ年)

区 分	前々年度	前年度	当年度
経常費用 (A) (円)	3,285,667	3,285,667	3,110,215
経常収益 (B) (円)	1,394,215	1,394,215	449,111
(A)－(B) (円)	1,891,452	1,891,452	2,661,104
補助金額 (円)	1,478,000	1,478,000	1,399,000
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

3 路線の維持、必要性の検討

(1) 代替性

① 重複および近接する路線 有 ・ (無) → (2) 機能性・需要量へ

② 重複および近接する路線の概要

路線名	運行系統				運行ダイヤ				輸送実績		
	起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	平均乗車 密度	輸送量

(2) 機能性・需要量

① 路線沿線の施設 (学校, 病院, 公共施設, 商業施設等) (有) ・ 無 → (3) 地域振興へ

② 路線沿線の主な施設

南茅部支所・尾札部中学校・磨光小学校・南茅部高校

③ 平均乗車密度の推移 (過去3カ年) (人)

区 分	前々年度	前年度	当年度
平均乗車密度	2.3	2.2	0.5
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

資料：停留所別乗降データ (調査日：令和2年9月15日)

(3) 地域振興

戸井支所, 恵山支所, 椴法華支所, 南茅部支所の所管区域の経由 (有) ・ 無

4 収支改善のための具体的な方策

(戸井支所, 恵山支所, 椴法華支所, 南茅部支所の所管区域を経由する路線については必要に応じて記載。)

- 当該路線は従前より平均乗車密度が5.0を下回っていたが, 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行による利用減少の影響を受け, 収支が大きく落ち込んだ。
- 函館市策定の地域公共交通再編実施計画に基づき, 地域関係者と協議しながら, 市が東部地区で運行する病院バス・温泉バス等の取扱いとあわせて, 地区特性に応じた運行形態への見直しを進めることとしている。

<利用促進策として>

- ①平成30年4月より, 既存の定期券がI C A S nimoca (I Cカード) を利用したものに切り替わるにあたり, 新聞折込のタブロイド誌発行のほか, 学校等関係機関への周知活動を図り利用促進を図った。引き続きI C A S nimocaの地域に対する周知活動は継続していく。
- ②函館市の交通料金助成制度が平成30年4月より, I C A S nimocaを利用した制度へ移行するにあたり, 函館市と協力し, 地域への説明会及びI C A S nimocaの販売を実施した。
- ③北海道新幹線新駅沿線協議会(函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・J R北海道・函館市企業局・津軽海峡フェリー・函館バス) 発案の『はこだて旅するパスポート』(J R・函館市電・道南いさりび鉄道・函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・木古内町管内の路線バスが2日間乗り放題の共通フリー乗車券 ※津軽海峡フェリーはパスポートを提示すると20%割引) を販売し, 観光客のバス利用の促進を図っている。平成30年4月からは利用期間がこれまでの2日間用に加え, 新たに1日間用の乗車券も販売開始しさらなる利用者の利便性の向上を図った。
なお, 『はこだて旅するパスポート』のパンフレットには, 東部地区の路線バスで行くモデルコースも掲載されている。
- ④外国人の利用促進策として, アジア向け観光ウェブサイト「悠々北海道」に路線バス情報を発信しているほか, 上記に記載のとおり全国共通I Cカードシステムを導入した。さらに平成30年3月には, 新たに英語対応ができるバスロケーションシステム(バスの接近情報がわかるシステム)に更新しさらなる利便性向上を図った。なお, 新たなバスロケーションシステムは, すべてのスマートフォンで見やすく表示できるよう対応し, さらに, 函館バス同士での1回乗継ぎが発生する場合の接近情報も見ることが可能となっている。
- ⑤平成31年2月より, 道内19社共同で外国人観光客に向けた『北海道バジェットバスパス』の販売を開始した。道内広域で高速バスを含めた指定路線バスが乗り放題となり3日間用と5日間用がある。当路線でも使用することができ, 外国人観光客の利便性が向上している。
- ⑥公共交通網の構築の実現に向けたバス路線網再編の一環として, 系統番号の見直しを平成31年4月に実施した。系統番号を方面別に整理し, すべての系統に番号が振ることにより, バスの番号を見るだけで方面がわかるようになり, また, 外国人観光客へも番号でバスを案内できるようになる等利便性の向上が図られた。

改善しない場合の理由

()

II 函館市生活交通協議会における協議 (市が記載)

- ① 収支改善のための具体的な方策への意見等

()

- ② 路線維持・補助の必要性について

必要性 有 ・ 無

↓ ()

III 改善計画 (事業者が記載)

- ① 函館市生活交通協議会の意見に対する事業者の検討結果

()

- ② 実施日 ()

運行系統図 鹿部海岸線②(224系統)
(南茅部支所～川汲～古部)



停留所別乗降データ（単位：人）

調査日：令和2年9月15日(火)

運行系統名	起点	経由	終点	キロ程	運行回数
鹿部海岸線② (224系統)	南茅部支所前	尾札部	古部	15.7	0.5

停留所 連番号	停留所名	17:53発		
		乗車	降車	通過
1	南茅部支所前	7		
2	川汲			7
3	宮前			7
4	清水			7
5	谷地町			7
6	岬			7
7	磨光			7
8	磨光小学校前		1	7
9	著保内			6
10	後駒		1	6
11	尾札部会館		2	5
12	尾札部			3
13	尾札部郵便局前		1	3
14	尾札部中学校前		1	2
15	上見日			1
16	見日			1
17	下見日			1
18	島歌			1
19	汀浦			1
20	ボン木直		1	1
21	ピリカ浜			
22	木直			
23	割石			
24	白井川			
25	大梶			
26	立岩			
27	古部			
合 計		7	7	

運行系統名	起点	経由	終点	キロ程	運行回数
鹿部海岸線② (224系統)	古部	尾札部	南茅部支所前	15.7	0.5

停留所 連番号	停留所名	17:22発		
		乗車	降車	通過
1	古部			
2	立岩			
3	大梶			
4	白井川			
5	割石			
6	木直			
7	ピリカ浜			
8	ボン木直			
9	汀浦			
10	島歌			
11	下見日			
12	見日			
13	上見日			
14	尾札部中学校前			
15	尾札部郵便局前			
16	尾札部			
17	尾札部会館			
18	後駒			
19	著保内			
20	磨光小学校前			
21	磨光			
22	岬			
23	谷地町			
24	清水			
25	宮前			
26	川汲			
27	南茅部支所前			
合 計				

I 改善計画案 (事業者が記載)

1 路線の概要

路線名：旭岡団地線② (76B系統) (運行実績期間：R1.10～R2.9)

運行系統					運行ダイヤ				
起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	実車走行 キロ (km)
昭和 営業所	花園町	旭岡 中学校前	14.7	300	6:55	—	40	0.1	1,822.8

輸送実績		経常費用 (円)	経常収益 (円)	費用－収益 (円)	補助見込額
平均乗車 密度	輸送量	(A)	(B)	(A)－(B)	(千円)
1.8	0.1	504,332	179,197	325,135	限度額 226

資料：運行系統図

2 路線の収支および補助額の推移 (過去3カ年)

区 分	前々年度	前年度	当年度
経常費用 (A) (円)	493,467	511,322	504,332
経常収益 (B) (円)	399,965	416,360	179,197
(A)－(B) (円)	93,502	94,962	325,135
補助金額 (円)	93,000	94,000	226,000
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

3 路線の維持、必要性の検討

(1) 代替性

① 重複および近接する路線 有 ・ (無) → (2) 機能性・需要量へ

② 重複および近接する路線の概要

路線名	運行系統				運行ダイヤ				輸送実績		
	起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	平均乗車 密度	輸送量

(2) 機能性・需要量

① 路線沿線の施設 (学校, 病院, 公共施設, 商業施設等) (有) ・ 無 → (3) 地域振興へ

② 路線沿線の主な施設

白百合学園、有斗高校、ラサール学園、イオン

③ 平均乗車密度の推移 (過去3カ年) (人)

区 分	前々年度	前年度	当年度
平均乗車密度	5.0	5.0	1.8
運行実績期間	H29.10～H30.9	H30.10～R1.9	R1.10～R2.9

資料：停留所別乗降データ (調査日：令和2年9月12日)

(3) 地域振興

戸井支所、恵山支所、椴法華支所、南茅部支所の所管区域の経由 有 ・ (無)

4 収支改善のための具体的な方策

(戸井支所, 恵山支所, 椴法華支所, 南茅部支所の所管区域を経由する路線については必要に応じて記載。)

- 当該路線は平年, 平均乗車密度5.0以上の水準を維持してきたが, 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行による利用減少の影響を受け, 初めて平均乗車密度が5.0を下回った。
- 当該路線は買物等の生活の足として利用されているものであることから, 直ちに減便等は実施せず, 新型コロナウイルス感染症の終息後の利用回復を目指して, 従前の運行を継続する。

改善しない場合の理由

()

II 函館市生活交通協議会における協議 (市が記載)

① 収支改善のための具体的な方策への意見等

()

② 路線維持・補助の必要性について

必要性 有 ・ 無

↓ ()

III 改善計画 (事業者が記載)

① 函館市生活交通協議会の意見に対する事業者の検討結果

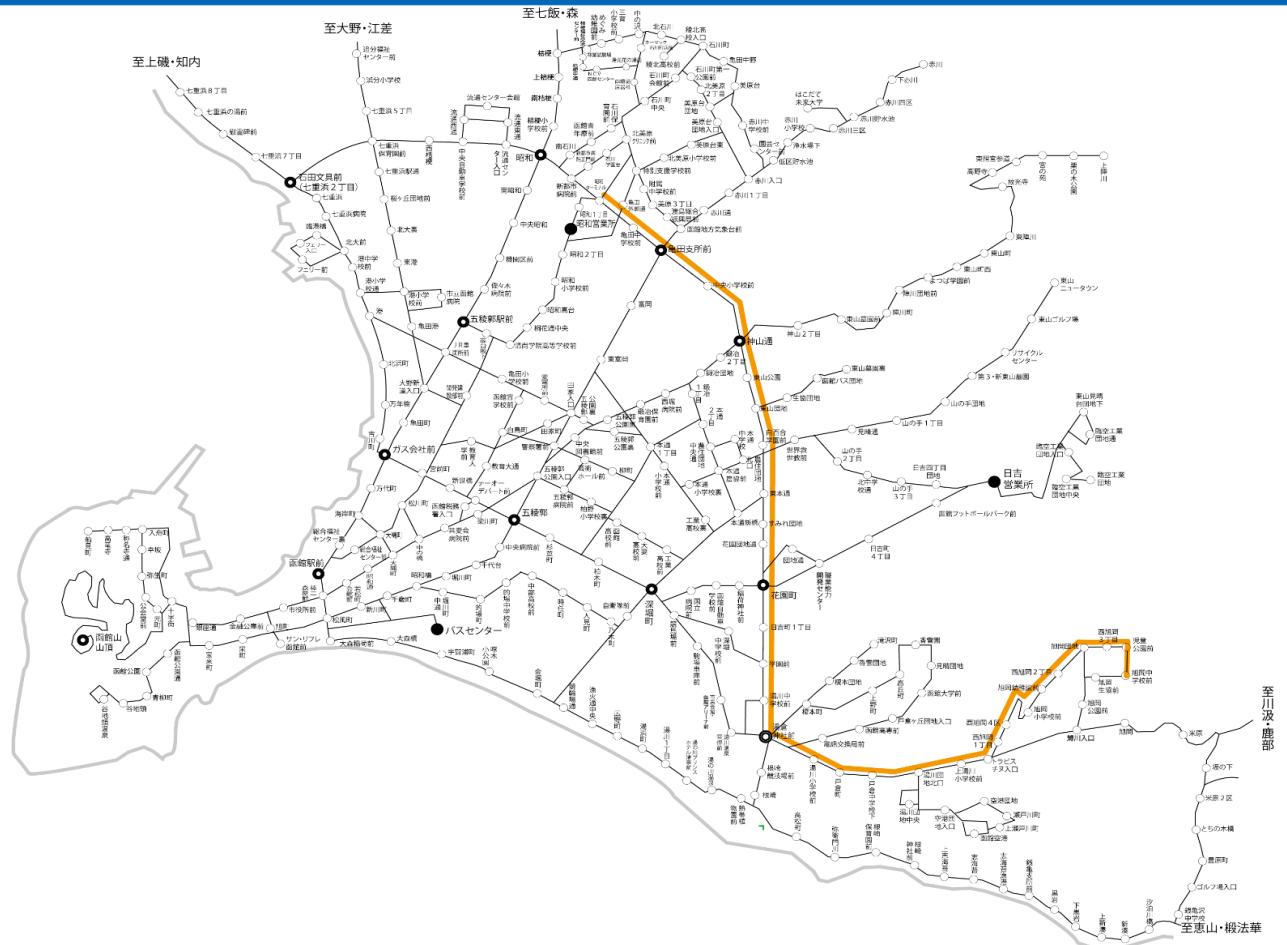
()

② 実施日 ()



運行系統図

旭岡団地線② (76B系統)



停留所別乗降データ（単位：人）

調査日：令和2年9月12日（土）

運行系統名	起点	経由	終点	キロ程	運行回数
旭岡団地線② (76B系統)	昭和営業所	花園町	旭岡中学校前	14.7	0.1

停留所 連番号	停留所名	6:55発		
		乗車	降車	通過
1	昭和営業所前			
2	昭和1丁目			
3	昭和ターミナル			
4	亀田中学校前			
5	亀田支所前			
6	中央小学校前			
7	神山通	1		
8	東山公園	1		1
9	東山団地	1		2
10	白百合学園前	2		3
11	東本通	1		5
12	花園団地通			6
13	花園町			6
14	日吉町1丁目			6
15	学園前			6
16	湯川中学校前		3	6
17	湯倉神社前		3	3
18	湯川小学校前			
19	戸倉町			
20	戸倉中学校下			
21	湯川団地北口			
22	湯川団地中央			
23	湯川団地北口			
24	上湯川小学校下			
25	トラピスチヌ入口			
26	西旭岡1丁目			
27	西旭岡四区			
28	旭岡小学校前			
29	旭岡幼稚園前			
30	西旭岡2丁目			
31	旭岡団地			
32	西旭岡3丁目			
33	児童公園前			
34	旭岡中学校前			
合 計		6	6	